

緑の相談

Q & A

Q

取り木の時期と方法を教えてください。

A

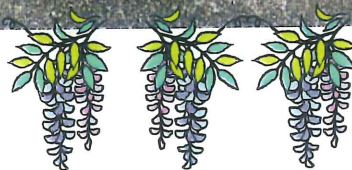
春から伸び始めた新芽の成長が一旦止まる6、7月は挿し木や取り木がしやすい時期です。

挿し木は1〜2年の細い枝に限られますが、取り木は、4〜5年生以上の太い枝でも発根させることができます。

これは、フジを取り木して親木から切り離したところです。

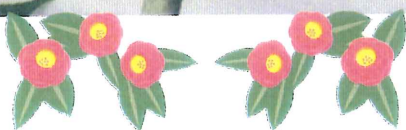


フジは発根が早い樹種で、約2か月で、これくらい発根しました。



ツバキの枝で取り木の方法を説明しましょう。

まず、取り木をする枝を決め、枝の直径の3〜4倍の長さの皮を剥ぎます。皮を剥くと、ヌルヌルした形成層がでてきますが、これをナイフの刃で、軽く削り取ります。



そこを、湿らせた水苔で包み、水分が蒸発しないように、ビニールで覆い、上下をひもで縛っておきます。木の種類にもよりますが、約2か月で発根します。

切り口に発根促進剤(ルートンなど)を着けると発根が早まります。



ただし、発根しにくい木と発根しやすい木があるので、いろいろ試してみると、面白いでしょう。

発根しやすい木は、フジ、サクラ、ツバキ、レンギョウなどで、発根しにくい木は、サザンカ、メグスリノキ、ミカン類などです。

「しゃってみよう！」

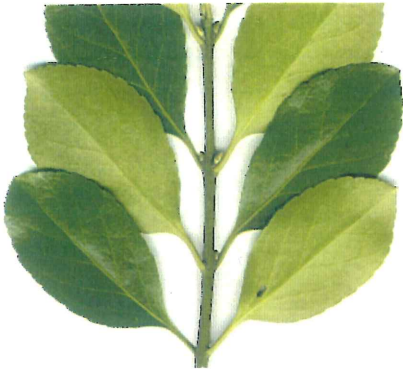
「葉っぱ」の観察をしよう

梅雨明けも間近、里山は緑一色。毎日見ている庭の植木、散歩の途中で見る垣根。花の季節が過ぎてつい見過ごしてしまいがちな木の葉をじっくり観察してみよう。

これはツバキの葉です。一枚一枚の葉が交互に付いています。交互に付いているので「互生」といいます。



次にこれはマサキの葉です。葉が反対側の同じ場所から出ているので、「対生」といいます。アジサイは上下2枚の葉が直角方向に出るので「十字対生」といいます。



対生の変化型で相対する葉がくっついてあるたかも葉を茎が突き抜けているように見えるツキヌキニンドウというつる植物もあります。



ではこの葉は何でしょう？



上がサルスベリ、下がコクサギです。よく見ると、葉が2枚ごとに交互に付いていることが分かります。このような葉の付き方を「コクサギ葉序」といいます。

枝が水平に伸びた場合によく見られる現象で、枝が垂直方向に伸びた場合は、ツバキなどで「互生」の木と同じようになります。コクサギはミカン科で、名前のように「小臭木」で葉をもむと柑橘系の臭いがします。みかも山公園では、やや湿り気のある谷筋に多く見られます。

なぜこのように葉が付いたのか、諸説ありますが、「対生」から「互生」に進化する過程説が有力です。なおコクサギはクロアゲハ蝶の幼虫の食草でもあります。

他にキョウチクトウのような「輪生」という葉の付き方があります。



(みかも山公園緑の相談所)